

県オリジナルキウイフルーツの開発と栽培方法

香川県農業試験場 府中果樹研究所 山下泰生

1. キウイフルーツの特徴

果実は

追熟しないと食べられない。

ビタミンC、カリウム、食物繊維を多く含む。

タンパク質分解酵素「アクチニジン」を含む。

栽培では

つる性のため、棚が必要。

雌雄異株のため、人工受粉が必要。

2. キウイフルーツと近縁種

マタタビ属 (*Actinidia*) の分類

<i>deliciosa</i> 種	} キウイフルーツ
<i>chinensis</i> 種	
<i>arguta</i> 種	
<i>rufa</i> 種	
その他 42 種	サルナシ シマサルナシ

キウイフルーツは中国原産。*deliciosa* 種は中国西部、*chinensis* 種は中国東部に分布。

サルナシ、シマサルナシは日本にも自生する野生種。サルナシは冷涼な山間部、シマサルナシは温暖な海岸沿いに分布。

3. 品種育成の背景と目的

全国に先駆け昭和 50 年頃よりキウイフルーツに関する試験研究を開始。

国内外における栽培品種のほとんどが「ヘイワード」であり、品種の多様性に乏しい。

良食味でオリジナル性のある品種の育成を目標に、サルナシやシマサルナシも利用した種間交雑育種を開始した。

4. キウイフルーツ育種の特徴

長所

1 回の交配作業で得られる種子数が多く、変異の拡大が容易である。

雄花と雌花があるため、除雄などの作業が必要ない。

栄養繁殖作物のため固定が不要である。

短所

雄株は結実しないため、育種目標に応じた雄品種の選択が困難。

幼苗の個体が小さく、育成管理が難しい。

雄株と雌株がほぼ半数で出現する。

播種から開花するまで約 3 年を要し、開花するまで雄株と雌株の判別ができない。

5. これまでに育成した品種

◎香緑（昭和 62 年品種登録）

来歴：ヘイワードの実生 (*A.deliciosa*)

特徴：果形は俵型、重さは 100 g 程度、果肉は濃い緑色、糖度は 15～17 度、
収穫期は 11 月上旬

◎讃緑（平成 11 年品種登録）

来歴：香緑 (*A.deliciosa*) × 中国系雄系統 (*A.chinensis*)

特徴：果形は砲弾型、重さは 100 g 程度、果肉の色はやや淡い緑色、
甘みと酸味のバランスが良い、糖度は 16～17 度、収穫期は 11 月上旬

◎香粋（平成 11 年品種登録）

来歴：一オサルナシ (*A.arguta*) × マツア (*A.deliciosa*)

特徴：果形は卵形、重さは 30～50 g と小果、果面の毛じが少ない、果肉は緑色、
酸味少なく甘みが強い、糖度 15～18 度、収穫期は 10 月下旬

◎さぬきゴールド（平成 17 年品種登録）

来歴：アップル系キウイ (*A.chinensis*) × 中国系雄系統 (*A.chinensis*)

特徴：果形はハート型、重さは 160～180 g と大果、果肉の色は濃黄色、
糖度 14～17 度、収穫期は 10 月上～中旬

◎さぬきエンジェルスイート（平成 21 年品種登録出願、申請中）

来歴：保存雌系統 79-1-2 (*A.chinensis*) × 中国系雄系統 (*A.chinensis*)

特徴：果形は卵形、重さは 100 g 程度、果実表面の毛じが少ない、果肉の色は黄緑色
で種子周辺部は赤色、糖度 18 度と高く食味は特に良好、収穫期は 10 月下旬

この他、香川大学との共同研究で「香粋」タイプの小型キウイフルーツ 5 品種を育成し、
8 月に品種登録出願を行った。いずれも、交配親はシマサルナシ (*A.rufa*) × 中国系雄系
統 (*A.chinensis*) で、「香粋」に比べて高糖度で花腐れ細菌病に強い性質を持つ。

6. オリジナル品種に対応した栽培技術の改善

- ・新梢が巻き付きやすい「香粋」は、新梢管理の労力が大きい。そこで、Tバートンネル
棚を利用した仕立て法を開発した。この方式は慣行の平棚栽培に比べて、新梢の誘引と
せん定作業の短縮により年間作業時間を約 20%減少させることができる。
- ・「香緑」「讃緑」「さぬきゴールド」の人工受粉では、液体増量剤による液体受粉により、
慣行の粉末増量剤による受粉に比べて作業時間が 30%省力化できる。
- ・「さぬきエンジェルスイート」に対して、7 月中旬～8 月中旬に環状剥皮処理を行うこ
とにより、無処理に比べて果実は大きく、糖度は高くなり、種子周辺の赤色が濃くなる。